GP Good Practice NEWS LETTER
帝塚山大学 心理福祉教育推進室
Vol.2
2011.8

福祉と地域支援のための人材育成

帝塚山大学 心理福祉学部 地域福祉学科主任　杉本 正
Tadashi Sugimoto

「福祉」という言葉から、イメージするものは何でしょうか。高齢者の介護でしょうか、身体の不自由な方のお世話でしょうか、あるいは、ボランティア活動でしょうか。いずれも間違いではありませんが、実際の「福祉」はもっと幅広くとらえられています。「福祉」という言葉は「幸せ」というような意味をもっています。英語では（welfare）や（well-being）です。wellは「心地よい、すばらしい」という意味で、fareは「暮らす、やっていく」、beingは「生存、人生」という意味で、福祉は「心地よい暮らし」、「すばらしい人生」を表現しています。

20世紀の日本社会は、2つの大戦を経験し、第2次世界大戦を敗戦で迎えました。国民生活は壊滅的な打撃を受け、そこからの復興、国民の生活を立て直すための初期の福祉対策、そして高度経済成長、オイルショックを経て、低経済成長期から、21世紀を迎えました。この間、日本社会は、総ての面において「優れている（優秀）」を追い求めてきました。

私の小学校時代の通知簿は、5段階評価で「すぐれている」、「ややすぐれている」、「ふつう」、「ややおとっている」、「おとっている」でした。親も、教師も、当然、私たちもみんな挙って「優れている」を目指したものでした。このように優秀さを追い求めた結果、高い教育水準や、生産技術の発展、高度経済成長、そして、国民生活の向上が叶いました。しかし、一方では、受験戦争、高学歴偏重の社会を生み出し、結果として、格差社会を進めることになり、「社会的な排除」（social exclusion）が問題化してきました。

経済発展は先進国の仲間入りをしましたが、私たちの生活をまもる「福祉」に関しては、先進国にほど遠い状態にあることが現実です。例えば、日本の知的障がい者は46万人ともいわれていますが、（実態把握が不十分ですが）人口の0.36%を占めています。先進諸国の知的障がい者は人口の2%程度が常識とされています。これは、日本に知的障がい者が少ないのではなく、障がいと認定されないために、福祉サービスが受けられない（排除されてしまっている）という結果になっています。

こうした状況の中で、今日、新たな福祉課題として、高齢者介護、障がい者の自立支援、子育て不安、虐待、ホームレス、社会的引きこもりなどが顕在化してきました。こうした問題に対して、それぞれ法や制度による対応がなされてきましたが、今なお、「共生の社会」にはほど遠い状況です。21世紀の社会は、この「優秀（すぐれている）」にはしばらく休んでもらって、同じ「優」でも「優しさ」を大切にする社会を築いていくことが重要です。人に優しい、環境に優しい、自然に優しい社会にしたいものです。そのために福祉が果たす役割は限りなく大きいものだと思います。私たち、それぞれの努力が今日の社会を築き上げてきたのですが、「優秀さ」を重んじるあまり、大切なもの、「優しさ」をどこかに置き忘れてきたような気がします。

わが国の福祉は長い間、施設中心の福祉を進めてきました。「保護」という名のもとに、福祉サービスの必要な人たちを「隔離・排除」してきたことを払拭し、これからの福祉は、誰もが地域社会で豊かな生活を送ることができることです。地域で自立した生活を支援するための福祉サービスの整備が急務となっています。こうした背景の基に、地域福祉学科は地域社会で福祉支援活動が展開できる、実践力、福祉力を備えた専門職を養成することを目的に設置されました。

本学科における福祉教育は質の高い学士力を育成することを主眼として、教育体制は社会福祉、精神保健福祉、福祉関係領域の講義による知識伝達教育を踏まえて、援助技術演習などで対人援助におけるスキルアップを図っています。また、福祉・医療の現場において実習活動を行うことで豊かな実践力を身につけ、そして、学生が自らの学習・研究活動を推進するためにゼミナールを開設しています。ゼミでは、学生と教員がともに学び合うことによって、最近の目まぐるしく変わるわが国の社会福祉に適切に対応できる人材として、また、知識と、技術と、ハートをもった人材の育成が図られています。今回の「大学教育推進プログラム」の各取組みを通して、福祉関係行政・団体、福祉事業者、ボランティア団体などとのネットワークを構築し、社会福祉の分野において質の高い学士力をもった人材の育成に取り組んでいければ幸いです。

心理学部シンポジウム

帝塚山大学では、2006年より小学生のための発達支援グループ活動を開始し、このような活動をはじめとして、地域における様々な発達支援を続けています。これらの経験から、児童だけでなく、成人期を対象とした支援が重要であることがわかってきました。そこで今回は、学外から支援の現場で活躍しておられる先生をお招きして、成人期における発達障がいの問題についてともに考えることを目的とした心理学部シンポジウムを開催しました。

当日は、他大学や本学の学生、教職員、医療機関職員、福祉施設職員、地域の方など、123名の参加者があり、アンケートには「現場で様々な事例を経験されている方のお話でしたので、とても説得力がありました。今後へのヒントが色々いただけました」「現状だけでなくSSTの様子をお伺いできたのが、特に勉強になりました」などの意見が寄せられました。現在の発達障がいをもつ人々を取り巻く環境や就業支援を通じて見えてくる課題を知ることができる機会となりました。今後の展望としては、発達障がいをもつ人々の現状を理解し、正しい情報を伝えることの大切さ、就業支援、社会技能訓練（SST）といった支援につなげていきたいと考えています。

主題：「発達障がいをもつ人々への支援の現状と展望:成人期の方への支援」
日時：平成23年7月9日（土）14時から16時半
会場：帝塚山大学学園前キャンパス 16501教室
コーディネーター：帝塚山大学　心理学部教授　大久保 純一郎
シンポジスト：奈良県発達障害支援センターでぃあ～　志野 静穂氏
なら障がい者就業・生活支援センター「コンパス」　小島 秀一氏
帝塚山大学こころのケアセンター　帝塚山大学SST研究会
主催：帝塚山大学　後援：奈良県、生駒市教育委員会

プロジェクトチーム活動

1. のびのびクラス（たんぽぽグループ、ひまわりグループ）

日時：平成23年5月～平成23年9月の間の隔週 各グループ計8回
場所：帝塚山大学 こころのケアセンター

「のびのびクラス」は、社会的場面において問題を抱える小学校1年生から4年生までの児童に対し、グループ活動を通してコミュニケーション力や社会的スキルの向上を目指し、発達を促すことを目的としたクラスです。昨年度に引き続き、「たんぽぽグループ」と「ひまわりグループ」の2グループが実施されています。親子で別々に分かれてグループを形成し、子どもグループは工作や感覚遊びなどを行い、保護者グループでは、保護者同士が情報交換や体験を語り合う場を提供しています。

今回は「たんぽぽグループ」には5名、「ひまわりグループ」には4名の参加者がありました。この活動に本学の院生や学部生も積極的にボランティアとして参加しました。

2. アドベンチャーカウンセリング

大阪府交野市教育委員会との教育提携

昨年度に引き続き、交野市内の小学校でのアドベンチャーカウンセリング授業や教職員対象の研修を開始しました。平成23年度は長宝寺小学校・倉治小学校を対象に月2～3回のアドベンチャーカウンセリングを用いた授業を行っています。非常勤講師3名がファシリテーターとして、学生もアシスタントとして授業のみならず、休み時間や給食の時間においても子どもたちと関わり、サポートをしています。学生にとっても実際の授業だけでは得ることができない、小学校現場で活かすアドベンチャーカウンセリングを学ぶ機会となっています。

また5年生の林間学校にも教員と学生がボランティアとして参加しました。なお、夏季休暇期間には教職員研修の実施を予定しています。

○授業実施実績

長宝寺小学校での授業実施

平成23年5月～7月　授業回数（林間学校含め）6回　スタッフ派遣延べ（学生）22人

倉治小学校での授業実施

平成23年5月～7月　授業回数9回　スタッフ派遣延べ（学生）33人

教職員研修 8／22 長宝寺小学校（帝塚山大学アドベンチャーカウンセリングコース）
8／24 倉治小学校（帝塚山大学アドベンチャーカウンセリングコース）
8／29 交野小学校（校内研修）
8／31 交野市第二中学・郡津小学校・倉治小学校（合同教員研修）

3. 学生サポーター派遣事業

昨年度に引き続き奈良県生駒市教育委員会との連携を中心に、その他には京都府教育委員会や大阪府八尾市立教育サポートセンターとも連携し、学生サポーターを小中学校や適応指導教室に派遣をしています。現在は小学校に7名、中学校に2名、適応指導教室に5名のサポーターを派遣しています。活動内容やその対象とする児童生徒も様々で、学生サポーターたちにとってよい学びの機会になっています。各派遣先でしっかりとした活動ができるように外部講師による派遣前研修会を実施しました。今後もワークも取り入れた定期的な研修会や事例検討会を行い、学生サポーターの活動を支援していきます。

心理福祉勉強会

1. 学校の中の子どもたち

近年、子どものうつ病についての関心が高まり、また子どもたちの様々な問題行動が増加しています。これらの問題行動は、子どもたちの学校生活のしづらさを生んでおり、この状況に一番困っているのは子どもたち自身です。そこで、子どもたちを心理と福祉分野の両面からどのように支えることが出来るのかを考えるために本学地域福祉学科の周防美智子先生が「学校の中の子どもたち～子どものうつと問題行動の関連～」と題して講義を実施しました。参加者は、学部生4名、大学院生9名、そして教職員2名でした。当日は周防先生の調査研究の結果をもとにして、学校場面での専門職の心理的な役割、福祉的な役割の必要性を詳しく知ることができました。

2. ライフストーリーワークについて

ライフストーリーワークは、ソーシャルワークの一技法として注目を集めています。なぜライフストーリーワークが大切なのか、そしてその意義は何なのかについて理解するために、情緒障害児短期治療施設「あゆみの丘」でセラピストをされている益田啓裕先生をお招きし、「ライフストーリーワーク～生い立ちを大切にするということ～」と題して、施設で生活する子どものケアの紹介と共にお話をして頂きました。学部生23名、大学院生7名、そして教職員2名が参加し、ライフストーリーワークの実践の内容を学ぶことができる貴重な勉強会となりました。

外部評価委員会

平成23年3月16日（水）10時～12時に、春日ホテルで平成22年度帝塚山大学　大学教育推進プログラム「心理福祉分野の学士力基準構築と人材の育成」第1回　外部評価委員会を開催しました。

外部評価委員長の甲子園短期大学教授・南 徹弘氏や、大阪大学教授・井村 修氏、きょうこころのクリニック院長・姜 昌勲氏、宝山寺福祉事業団理事長・辻村 泰範氏の4名の外部評価委員の先生方が参加され、帝塚山大学からは蓮花心理福祉学部長をはじめ8名の教職員が参加しました。

約1時間かけて心理福祉教育推進室より、平成22年度の事業報告や、平成23年度の事業計画の説明を行い、その後、質疑応答、意見交換の時間を持ちました。外部評価委員には、本取組を高く評価していただくとともに、学内外でのボランティア活動をするうえで、よりいっそう学生の動きやすい環境作りをすることなど今後の課題に関してのご意見をいただくことができました。

Live! TIESを実施

大学教育推進プログラムの取組として、6月17日（金）と7月14日（木）の2日間、交野市の小学校でLive! TIESを実施しました。帝塚山大学のTIES（Tezukayama Internet Educational Service）というネットワーキング型教育システムの機能の1つとして、「Live! TIES」という遠隔指導などが可能なシステムがあります。交野市の小学校内で行ったアドベンチャーカウンセリングの授業を撮影し、このシステムを利用して、交野市の小学校と大学とを結び、大学にいるスタッフと会話やチャットによる双方向のやりとりをリアルタイムに行いながら、子どもたちの活動の様子などの解説を行いました。

この撮影したデータを教材として、「Live! TIES」にのせて、交野市の小学校で活動をしている学生の活動の振り返りに役立てることを目的としたアドベンチャーカウンセリング研修会を実施します。また、担当講師もLive! TIESを活用することで、大学に戻ってから客観的に学生の成長や課題を確認することができます。アドベンチャーカウンセリング研修会の具体的な様子は、次に報告をします。今後も定期的にLive! TIESの実施を予定しています。

アドベンチャーカウンセリング研修会

本学非常勤講師の小西 浩嗣先生、西野 昌美先生と白鳥 司先生によるアドベンチャーカウンセリングの研修会を本学のプロジェクトチーム活動に参加している学生に向けて7月12日と28日の2回行いました。研修会は、交野市の小学校で行われているアドベンチャーカウンセリングの「Live! TIES」の映像を見ながら、学生の質問に先生方が答えるという形で行われ、実際に活動している多くの学生が活動をふりかえることができました。また、このように映像で活動を見直すことで各先生方も学生の成長や課題を再確認する場となりました。今後もこのような研修会を行う予定にしています。

地域支援論Ⅰ

この授業は、平成22年度文部科学省「大学教育推進プログラム」に本学心理福祉学部が採択されたことを受けて、新しく開講したものです。対象者は、ボランティアを希望する学生や地域支援に興味のある学生などでした。授業内容は、前半と後半に分かれ、前半は本学心理学科教授の神澤 創先生、小西 浩嗣先生による臨床心理学の視点からの授業であり、後半は本学地域福祉学科教授の杉本 正先生による地域福祉学の視点からの授業でした。毎回の講義には、この分野に関心のある100名強の学生が参加して、地域支援に関する知識を深めることができました。後期には、地域支援論Ⅱを開講します。

アセスメント

1. e能力アセスメント

e能力アセスメントとは、学生が学生生活で身につけていく学力・人間力・社会力などの諸能力を評価していくために作られたTIESの機能の1つです。学生は各講義担当者が選んだ3〜6の講義目標項目（「問題発見能力」「自己管理能力」「探究心」など）に自分が身につけたい能力の優先順位をつけ、15回の講義後にそれを自己評価（大いに身についた／まあ身についた／変わらない）していくことを基本としています。それに加えて、実習形式の講義やゼミナールなどでは、各担当者による評価もあわせて行います。

今年度の前期では、いくつかの講義やゼミナールなどでe能力アセスメントを活用することができ、多くの学生が自分の成長した点や、これからの課題に気がつくことができました。後期からもe能力アセスメントを実施していきます。

2. テキストマイニング

学生の成長を評価する1つの方法として、テキストマイニングという手法を用いました。テキストマイニングとは、自由記述文などの言葉や文章を分析し、新たな知識を得るといった手法です。実際、今年度では地域支援論Ⅰ、カウンセリング実習Ⅰのレポートを対象に分析を行い、まとめる予定にしています。

3. 外部評価者チェックシート

外部評価者チェックシートとは、プロジェクトチーム活動に参加している学生を対象に、学生の成長の変化を測定するために作成されたチェックシートです。e能力アセスメントの各項目などの評価基準項目をもとにしています。6月〜7月にかけて、各プロジェクトチーム活動に関係している専門家に、外部評価者チェックシートを用いたアセスメントを依頼し、実施しました。

9月からの予定

- 平成23年 9月　　のびのびクラス（2グループ）第1クールは9月で終了
  11月〜　のびのびクラス（2グループ）第2クールが開始
- 平成23年 9月〜　学生サポーター　募集開始、事前研修・事後研修を継続
- 平成23年 9月27日（火）地域支援論Ⅱ（後期）が開講
- 平成23年10月〜　アドベンチャーカウンセリングを用いた交野市内の小学校への支援活動を継続
- 平成23年11月26日（土）　第3回心理学部シンポジウムを開催予定
- 平成24年 2月　　第2回外部評価委員会を開催予定

※ この他、心理福祉勉強会も2回実施予定

帝塚山大学
TEZUKAYAMA UNIVERSITY
http://www.tezukayama-u.ac.jp/

人と人、人と社会、今と未来を結ぶ
絆
KIZUNA

編集・発行者
帝塚山大学 心理福祉教育推進室
〒631-8585 奈良市学園南3-1-3
TEL：0742-41-4499　FAX：0742-41-4491

http://www.tezukayama-u.ac.jp/special/gp/2010/education_reform/